

帝京大学大学院 医療データサイエンスプログラム 博士後期課程（入学定員3名）

2023年4月板橋キャンパスに開設予定
（設置届出中）

内容は予定であり、変更となる可能性があります。

医療データサイエンスプログラムの概要

医療データサイエンスプログラムは、医療関連分野の膨大なデータを利活用して、認知症をはじめとする中枢神経系疾患の原因解明や予防のための基礎研究、個人の体質にあわせた予防医療に関する研究、新しい医療サービスの実装（計画、実施、評価）などに貢献できる研究者・指導者の養成をめざします。

本プログラムは本学大学院医学研究科、薬学研究科、理工学研究科、医療技術学研究科、保健学研究科、公衆衛生学研究科が分野横断的に連携し、既存分野の枠を超え編成された教育課程です。

本プログラムを修了した者には「博士（学術）」の学位が授与されます。

特色

- ・複数の研究科の連携協力による大学院プログラム（研究科等連係課程制度の活用）
- ・授業科目はオンライン授業が中心、ただし研究科目は原則として対面授業
- ・社会人学生等の就学への配慮
 - 5時限以降や土曜日に、授業や研究指導を行う時間割
 - 標準年限を超えての計画的な履修（長期履修制度）を実施
- ・経験豊かな教員による教育および研究指導

八王子キャンパス



板橋キャンパス



宇都宮キャンパス



福岡キャンパス



授 業 科 目

基礎科目	医療情報リテラシー（必修）※
	医療統計学（選択）※
専門科目	疾患と診断および予防データサイエンス特論※
	疾患と診断および予防データサイエンス演習※
	画像と病態データサイエンス特論※
	画像と病態データサイエンス演習※
	認知と脳および薬データサイエンス特論※
	認知と脳および薬データサイエンス演習※
	患者支援データサイエンス特論※
	患者支援データサイエンス演習※
研究科目	医療イノベーションデータサイエンス特論※
	医療イノベーションデータサイエンス演習※
	データサイエンス特別研究（必修）

※ はオンライン授業

（履修方法）

次の通り19単位以上を修得する。

・必修科目として、基礎科目より1科目1単位、研究科目より1科目12単位、計2科目13単位を修得する。

・選択科目として、専門科目より計6科目6単位以上を修得する。ただし、5つの研究領域から3つの研究領域を選び、対応する講義科目と演習科目の1単位ずつ2単位を1組として、計6科目6単位を必ず修得すること。

教 育 目 的

医療データサイエンスプログラムは、建学の精神に則り、医療関連分野のデータを利活用して学術的・社会的な課題を自ら設定し、その解決方法を立案・実施・評価でき、他者と協働し問題を解決できる研究者・指導者の養成を目的とする。

教 育 方 法

本プログラムは、研究科等連係課程制度を活用して学内研究科と連携し、既存分野の枠を超えた、多様な専門領域の教員からなる分野横断型の教育課程です。学生が自立・自律して課題発見・課題解決に向けて学修しながら、医療の場においてデータを利活用して問題を解決できる研究者・指導者の養成をめざします。

学生が柔軟に授業を受けられるよう、基礎科目と専門科目については、LMS（Learning Management System：学習管理システム）、Web会議システム等を利用して、オンデマンドまたはライブ形式で授業が行われます。LMSを用いることにより、課題の提出や授業に関わる事前資料の入手が効率的にできます。また教員がインターネットを介して質問に回答するなど十分な指導を行います。

研究指導は、対面指導を基本としますが、Web会議システム等によるオンライン指導も取り入れます。

学 費（初年度納付金）

医療データサイエンスプログラム（博士後期課程）	入学金	授業料	施設拡充費	初年度納付金（合計）
	200,000円	530,000円	180,000円	910,000円

※上記以外に保険料がかかります。本学卒業生および帝京大学グループ校卒業生は入学金が半額となります。

プログラム長からのメッセージ

人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety 5.0時代が到来しつつあり、世の中全体のデジタル化、オンライン化を大きく促進しています。

このような社会的背景のなか、医療の場においても専門分野の知識・能力に加えてデジタル化に必要な知識・能力を備えた人材が求められています。言い換えれば、医療現場から大規模に収集される多様なデータを利活用できる人材を育成することは、社会的要請でもあるといえます。

本プログラムでは、医療関連分野のデータを利活用して学術的・社会的な課題を自ら設定し、その解決方法を立案・実施・評価でき、他者と協働し問題を解決できる研究者・指導者の養成をめざします。

医療データの利活用に意欲のある方を歓迎します。

大学院医療データサイエンスプログラム長